

人と活動のつながりづくりを応援する 

# にしとも広場

子どもを大切に思う全ての人と 2019  
14号





## 子どもを大切に思う全ての人と、地域で育つ子どもを考える

にしとも広場の今年度重点テーマは「子ども」。子どもを中心に、地域や環境、つながりなどを様々な角度から考えていきます。2019年7月7日(日)、子どもを取り巻く現状や西区での取り組みについて学ぶ講座を開催しました。



## ～基調講演「まちで育てることはまちが育つこと」～

横浜市立大学 三輪律江さん

### 都市計画・まちづくりから 見えてきたもの

これまでの都市計画・まちづくりは、人口増加で開発型、夫は都心部へ働きに、妻は家庭で子育てという形がベースにあり、公立小学校の学区が子どもにとってのコミュニティの基本でした。子どもの人口が減少し学校の統廃合が進むことや、私立学校へ進学する人がいることは前提になく、夫婦共働きが増えて保育所探しに奔走するというのも想定外でした。さらに核家族化も進み、地域を含め他者と触れ合う経験の少ない子どもが増えてきました。

これからは、男女が共に働き・共に子育てをすることを前提とした都市計画への移行、個人-家庭-地域-仕事のバランスがとれた「生活者」でいられるまちづくりが必要となり、そのためには「生活圏」の再構築・再設定が重要になります。

### まち(地域)全体で子どもを 育てる「まち保育のススメ」

地域の中で、他者との関わりが減ってきているのは、子どもだけではなくありません。仕事で日中を他のエリアで過ごし、休日に出かける人たちにとって、地域が身近でないことも多いはず。 「まち保育」は、子どもを通じ、保護者自身も「まち」とつな

がることができます。まち探検では、子どもが気になる所を写真とカードでマップにします。子どもは直接地域の人とつながりますが、子どもを介して親もつながるといふ利点があります。例えば“トトロの家のおばちゃん”を子どもが親に紹介し、それを機に親もつながり、地域の中で顔見知りが増え、地域が身近になっていきます。

### 自分のまちになるということ

実は、地域という概念は広く曖昧で、誰が関係するのかが分かりづらく、その不透明な当事者性が関わりの希薄さを生み出します。自分のまちと感じるには、子どもの頃からまち(地域)を知り、まちと関わる仕掛けを大人たちが創っていく必要があります。現在子育てしている人だけにとどまらず、地域全体で関わる、縦、横、ナナメの開かれたつながり。子どもも一市民として主体的に地域と関わること、一緒に楽しむことでまちが育ち、新たな担い手が育つ土壌を育むことができます。



三輪律江 (Norie Miwa)  
横浜市立大学 国際教養学部  
都市学系准教授博士 (工学)  
専門は建築・都市計画、参  
画型まちづくり、こどものた  
めの都市環境、環境心理学。  
NPO 法人ミニシティ・プラ  
ス理事他、子育て支援、ま  
ちづくりの NPO に関わる。



## 西区では… 3人の方に聞きました

### パネルディスカッションのポイント

- “地域で子どもを育てる” というときの “地域” の捉え方は？
- 子どもたちが “主体的” に育つとは？



NPO 法人はぐっと  
代表 山田美智子さん



地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」、認可外保育施設「ひよこの保育室」、横浜市産前産後ヘルパー派遣事業（生活支援事業）、出張保育「コアラの会」、西区役所キッズスペースを運営。

私の地域の捉え方は、住んでいるエリアの大人が子どもと関わることができる、ということです。保育園や幼稚園のときは親御さんの送迎が絶対ですが、小学生になって子どもが一人でまちを自由に動けるようになった時に、どれだけ声をかけてくれる大人がいるか、ということが大事な繋ぎになっていると思います。東日本大震災の時、エレベーターが止まってしまって、マンションの自宅に入れず、困っている小学生の姿がありました。地縁組織がない地域でも、住んでいるエリアの大人と子どもが関わりあって欲しいと思っています。

0歳・1歳・2歳の子どもたちは、言葉が巧みではないのでおもちゃを取り合ったり、手が出たり、髪の毛を引っばったりします。ここで子ども同士がどうやって解決するか、これを見守るのがスタッフの腕の見せ所です。「お友達に貸してあげなさい!」とお母さんが間に入って解決してくれちゃった。それでは、子どもは主体的に育ちません。関係性を育むためには、おもちゃを取り合っても、子どもたちのやりたい気持ちを大人が代弁し、言葉にすることの大切さを、スタッフは根気よく伝え続けています。



公益財団法人よこはまユース  
事業企画課長 守田洋さん



横浜市寄り添い型生活支援事業の「かもん未来塾」を運営。養育環境に課題があり支援を必要とする家庭に育つ小・中学生等に対して、基本的な生活・学習習慣を身につけられるように支援を行う。

かもん未来塾は、対象となる小中学生の放課後の居場所として、生活や学習習慣を身に付けられるよう、大学生や地域のボランティアさんと一緒に運営しています。子どもたちは基本的に区役所からの紹介で通うこととなりますが、遠方から通う場合は、その地域の民生委員児童委員さんに相談し、送り迎えができないか、そしてその子が住む地域で同じような役割を持っている居場所を紹介してもらえないか等、その地域に戻して考えるようにしています。1区あたり1箇所の設置のため、アクセスについては行政的な課題にもなっています。

子どもたちの関わりの中かで自然発生的に中学生が小学生を、小学生高学年が低学年の子をみる、ということが起こっています。また卒業した子がここでアルバイトをしてくれています。子どもたちも、あのお兄さんだったら自分のことをわかってくれるという安心があるので、卒業生の子の自信にもつながっているようです。自然に役割分担ができて、家族のような雰囲気生まれています。実は、特に高校生の若者世代というのは、地域に居場所がなく、どこか見えないところや家にひきこもっている子も少な

くありません。そこをなんとかしなければという課題も感じつつ、日々居場所を開いています。



西区第四地区社会福祉協議会  
会長 米岡美智枝さん

第4地区では給食が無い長期休み（夏、冬、春）に地区社協が自治会、活動団体と協働して週2回みんなの食堂を開催。50代のメンバーが中心になって「農業収穫体験」や「1泊2日のキャンプ」を実施。

第4地区の15自治会町内会の子ども達は一本松・戸部・東・本町・西前の各小学校へ通学しています。古い家がどんどん建て替わり、新しい子どもたちが入って来ています。共働きが多い現在、夏休み等一人で又は子どもたちだけでお昼ご飯を食べているのではないかと考え、地域の人みんなで一緒に食べる「みんなの食堂」を始めて4年目になります。開始日のポスターや開催場所のスタンプラリー地図、メニューを作って子どもたちを中心に配布しています。

参加者が100人を超える回もあります。作る人は多くが70代で閉店後はくたくたになるのですが、子ども達の嬉しそうな顔と「美味しい」「また食べたい」の声に励まされて頑張っています。地域の人達が作ってくれた「美味しい食事」と「温かい言葉」に子どもたちが「自分が大切に思ってもらっている」ことを感じてくれると嬉しいです。

農業収穫体験はいちご狩り遠足が変わったものですが、私たちが企画するとすぐバスに乗せて移動したりするのですが、40代～50代の方々はしっかり歩かせ、交通規則や班の下級生を思いやる気持ちなど多くの事を学ばせています。参加した子は1日で大きく成長して帰ってきます。素晴らしい発想だと思っています。

この子どもたちや保護者の方々が、今私たちがしている活動を引き継いでくれる日が来ることを期待しています。

## まとめ



「地域で子どもが育つ」その先というのは、自分にサイクルがまわってくるということとも考えられますね。子どもの主体性ということを考えると、今の大人たちが主体的に育ったかどうか、その経験値の弱さが重なっているのかなと思います。主体性の入口は実はとても初期にあります。小さいお子さんでも丁寧に向き合えば主体的に動きます。ただ、大人は、特に保護者は丁寧に向き合う時間が少ない。保育士などは丁寧に向き合って、その答えを引き出すことができているでしょうか。大人と、または子ども同士の対話のなかでアイデンティティを見つけていき、対話力、育まれ力、安心愛着を育んでいく。それがあって初めて、親になった時にその経験値を自分の子どもたちに伝えていけるのです。それを網目のようにひろげていくと子どもを育てる地域の価値が見えてくるのではないかと思います。

## 参加者の みなさんの声より



子どもと一緒に近所の方やまちで出会った方と話す機会を大切にしようと思います。



育休中に地域の中で主体的に子育てひろばに関わってみたいです。



行政や自治会など私にとってあまり自分ゴトと思えない活動にも目をむけてみる。



子どもの居場所づくり 大人の都合ではじめたなら、大人の都合でやめちゃいけない!



マンションの子の名前を聞いてみます。



## 子どもたちの 学びに寄り添う

にしとも一む  
ボランティアのみなさん



「西区役所近辺で外国につながる子どもが勉強できる場はありませんか？」というにしとも広場への相談から、「学習支援ボランティア養成講座」を開催。これをきっかけに、2018年8月から学習の場「にしとも一む」がスタートしました。毎回、5～6名の小学生とボランティアさんが1対1で学習を進めています。

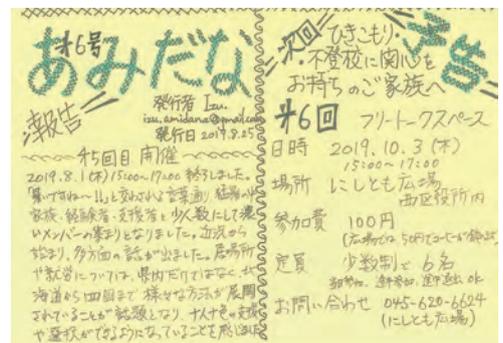
ボランティアのみなさんは、子どもたちと接するなかで、子どもの感受性の豊かさや、子どもたちの元気にエネルギーをもらっています。なかでも子どもたちに勉強を教えるのは初めて、という袴田さん

は、1年間活動してみて、ボランティア養成講座で学んだ「教えることは、教えられること」の意味が分かってきたといいます。子どもたちを見守るにしとも一むボランティアメンバーもそれぞれ得意不得意があり、自然と役割分担をしながら、子どもたちに向き合っています。子どもたちの学習を後押ししつつ、仲良くなって何でも話せるような関係を築いていきたいと考えています。

にしとも一む  
日程：毎週火曜日 16時～17時、第1・3土曜日 10時～11時  
場所・問合せ：にしとも広場 TEL：045-620-6624

## 生きづらさについて話そう

不登校・ひきこもり当事者家族の会  
あみだな Izuさん



大学の下宿で無気力に過ごしていた息子と、これからの将来についてどうしたらいいのか煮え切らない思いを抱え、喧嘩になりながら話し合ったとき、「僕のことなんか、みんな電車の網棚の荷物にしか見ていない…」と言われ、はっとしたことからこの名前をつけました。

「家族の色は、十人十色。家族関係や、今の状況にいたる原因も、本当に一人ひとり違います。当事者家族同士の会話の中では、生きた情報が巡ります」と Izu さん。もともとは家族を対象とした会としてスタートしましたが、回を重ね、ひきこもりや

不登校など生きづらさに関心のある方はどなたでもどうぞ、という形になりました。少人数ですが、家族・ひきこもり経験者・支援者と様々な立場の人が参加しています。当事者だけを当事者と見ず、関わる人みんなが当事者という考え方で、これからも話せる場を開いていきます。

あみだな  
日程：偶数月第1木曜日15時～17時  
場所：にしとも広場  
参加：100円（お茶代）  
連絡先：izu.amidana@gmail.com (Izuさん)  
定員：6名



## 布えほん、布おもちゃの 持つ「やわらかさ」と 「あたたかさ」を、 必要とするすべての人に



よこはま布えほんぐるーぷ  
代表 松村治美さん

よこはま布えほんぐるーぷは、絵本作家の池上従子（いけがみよりこ）さんが、立ち上げました。手仕事が好きな仲間たちと、障がいをもつ子ども、そうでない子ども、みんなが楽しめるよう、布えほんや、おもちゃを作り続けました。現在の代表である松村さんは4代目で、子どもの医療機関で布えほんとお会ったことがきっかけで活動に参加し、池上さん亡き後の活動を支えています。「布えほんは、ボタンやスナップ、ファスナーなど指先を使う仕掛けがあります。布のもつ柔らかさや温かさを感じ、ただ



ただ、喜んでくれることを願いながら作っています」と松村さん。会は2020年に活動40周年を迎えます。必要とするすべての人が楽しめるように、登録をし、受け渡し可能であれば、誰でも無料で借りることができます。



よこはま布えほんぐるーぷ  
活動日時：毎週木曜日 10時～15時  
活動場所：横浜市健康福祉総合センター  
ボランティアセンター内



## のびのび あそぶを 見守る



丸田鉄美さん



関西ですっと仕事を続けてきて、退職後、75歳になって横浜に引っ越してきた丸田鉄美さん。地域の保健活動推進委員や環境委員を務めるようになったことから、地域のキーパーソンとつながりました。

丸田さんが現在ボランティアをしているフリーサロン5は、誰でも自由に、ふらっと集えるサロンです。平沼橋桁下の西昭会館。夕方から、徐々に子どもたちが集まり始め、靴箱がいっぱいになりました。子どもたちは広場で思いっきりボール遊びをしたり、会館の和室で絵をかいたりゲームをしたり、思い思いに過ごしています。

丸田さんは、そんな中、折り紙や、図書館で借り

てきた折り紙の本をたくさん持ち込んで子どもたちに教えています。折り紙をしながらも周囲のこどもたちに「スマホをしながらご飯を食べたらだめだよ」などさりげなく、でもきちんと伝えていきます。「子どもたちを見ていると、お母さんたちは仕事や子育てで忙しくあまり時間がないんだね。代わりにはなれないけれど、子どもたちから元気をもらいながら、自分が見たり、聞いたりしてきたことをたくさん伝えていきたいです」と優しいまなざしの丸田さんです。

フリーサロン5  
日程：月1回 15時30分～19時 場所：西昭会館  
問い合わせ：090-5793-1711（武田さん）



## 子どもの 発達について 親子一緒に 学んでいます



地域訓練会キャロット  
代表 大坪美春さん



大坪さんのお子さんは、成長が少しゆっくりでした。1歳半検診の時、発語に遅れがあることがわかり、保健師さんから発達に関わる療育を行う親子教室や、訓練会キャロットを紹介してもらいました。

キャロットに参加しているのは主に2～3歳のお子さんと、ベテランの先生方に発達過程について相談ののってもらい、サポートを受けながら、リトミック※や、生活に必要な基本的行動を、親子で楽しみながら繰り返し学んでいます。「親は、親ならではの先入観で子どもをみている時があって、思い込んでしまったり…。フラットな他人の目は、とても大事だと思います」と大坪さん。参加する中で、お友達

との関係を築きながら影響を受け合い、興味の幅も広がり、成長を実感し毎回驚かされているそうです。

キャロットでは、入園などで卒会した後も、親の会につながっています。イベントや勉強会もあり幼稚園や小学校の様子などを先輩ママたちから聞くこともできます。親も安心でき、それが子どもの安心にもつながるように感じています。

地域訓練会キャロット  
活動日時：毎週金曜日 10時～13時  
活動場所：西区地域活動ホーム  
問合せ先：045-243-0909

※リトミックとは、音楽活動を通して心や身体の発達を促す教育法です。

## パパもママも 楽しむと 子どもも楽しい！



共育会  
朝比奈信弘さん



大人も子どもも楽しめる場として、2か月に1度ほど、ゆるく集まっているという朝比奈さん。元々は、子どもの友達の親同士で始めた仲間内での交流会でしたが、現在はハロウィンイベントやマジックショー体験など、自分たちだけの交流にとどまらず、仕事で培った企画力とマーケティング力を活かして、いろんな親子が参加できるイベントも企画しています。

子ども達が楽しむための準備や練習のプロセスをパパ自身がとにかく楽しむこと、出会った人をどんどん巻き込んでいくことを大切にしています。

子どもを見ていると、「もっともっとこういう場が

あるといいな」というアイデアが生まれてくるといいます。地域のなかには面白い人やコトが実はたくさん潜んでいます。そうした人との出会いやコラボレーションにアンテナを巡らせています。



ハロウィンで  
みんなでつくった  
ジャック・オー・ランタン

共育会 (きょういくかい)  
活動日：土曜日 (2か月に1回程度)  
活動場所：にしとも広場  
問い合わせ n-asahina@sbcg.or.jp (朝比奈さん)

## 新コーナー 大募集! にしともフォトコーナー



### 募集テーマ「わたしのおススメにしくスポット」

あなたのおススメの西区の景色を教えてください。

応募いただいた写真のなかから、

次の情報紙 15 号に写真を掲載します!

締切：2019年12月3日(火)



送付先：ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

タイトルは「フォトコーナー申込み」とご記入ください。

- 1 ニックネーム
- 2 年代
- 3 撮影場所(写真のタイトル)
- 4 連絡先メールアドレス または 電話番号
- 5 お名前
- 6 この場所のおすすめの理由
- 7 14号(本号)の感想

※①～③を紙面に掲載します。

※人物が写っている場合は、撮影・掲載許可を必ずおとりください。

※撮影機材の限定はありません。スマートフォンも可能です。  
データにてお送りください。



撮影者：N・Yさん(80代)  
「平沼橋の上より」



## 編集後記

『子どもを大切にすべての人と、地域で育つ「子ども」を考える』この講座の告知をFacebookで行った時、「いいね」の数が800を超えました。関心の高さは、課題の多さも表しているのかもしれない。

講座に登壇された皆さん、ご紹介する6団体も、それぞれ多種多様な活動です。にしとも広場は、思いをもった方たちが出会う「きっかけ」や、つながる「ハブ」になりたいと思っています。皆さんの想いをお聞かせください。(にしとも広場スタッフ一同)

にしとも広場15号は、  
3月発行予定です。  
お楽しみに!



にしとも広場は、  
土・日曜日、祝日も  
開館しています  
(水曜日休館)

### “にしとも広場”ってどんなところ?

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。

「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。



にしく市民活動支援センター  
にしとも広場

管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま  
TEL/FAX：045-620-6624

- Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp
- ホームページ <http://www.nishitomo.city.yokohama.lg.jp/>
- 住所 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階
- 開館時間 9:00～17:00  
休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29～1/3)
- アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩8分  
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分

